

有事シミュレーション(シーン1)

- ・季節は夏の暑さが残る9月23日、自宅寝室にて。時刻は真夜中の1時過ぎ。日中の仕事の疲れか、布団に入りウトウトしていると、突然、ゴーという地鳴りと共に、下から突き上げるような強い揺れ。ベッドの周りの棚から物が落下、天井の石膏ボードが一部落下するほど大きな揺れだった。
- ・すぐに停電・・・テレビをつけようとしたがダメ。携帯の緊急ニュースで震源は東京湾、マグニチュード8.2とのこと。よりによって、真夜中か・・・と独り言。
- ・窓を開けると、けたたましいサイレンと共に、外に逃げ出す人々。向いでは一部土煙をあげて木造家屋が半壊していた。
- ・施設は大丈夫だろうか・・・今日の夜勤は社員のAとパートのB、入居者の安否が気にかかる。携帯をコールしたが繋がらない。
- ・施設までは、電車で40分、徒歩では1時間半ほどの行程。自分は有事の出勤要員ではないが、幸いにも家屋損壊や家族の怪我がないため、使命感とともに親しい入居者の不安げな顔が脳裏から離れず、居てもたってもいられず自宅を飛び出した・・・

- ・その頃、施設では、夜勤者A・Bが休憩をとっていた時間帯に、巨大地震に見舞われていた。余りの揺れに、部屋から飛び出す入居者、這って出てきた入居者、大きな声を上げている入居者。
- ・この施設は四階建て。施設内は停電で真っ暗である。
- ・まず、入居者の安全確認を優先と判断し、自分は1-2階、後輩のBは3-4階の確認を行った。停電のためエレベーター使用できない。どうやって各階から移動するのか一瞬脳裏をよぎった。
- ・2階までに入居者は28名、20名は自力・車椅子で移動可能。残り8名のうち5名は介護度5で動けない。3名が顔面蒼白、ショック状態が伺われる。
- ・3-4階にいった後輩が、大声で「体調不良な方・怪我人はいません。」「ただ・・・給排水管から大量の水が漏れています」と叫んだ。
- ・ショック状態の3名について看護師・指定医にコールするも繋がらず。
(本来はDr指示でアタラックスピーを(看護師が)注射すべきなのだが・・・)
両腕をあげ、呼吸を整えるよう話しかけるが、余震で周囲が騒然とし、なかなか声が聞き取れない。やむなく119番通報し、救急車到着を待つこととした。

*発電機の使い方が分からない・・・

真っ暗な中、4階からの水漏れを回避すべく、オープンスペースに集まってもらった。
水が激しく漏れている・・・自分も心細い。

*誰が応援に来てくれるのか、いつ来てくれるのか

これからの復旧に向けての不安がよぎる・・・喧騒と不満・寒さの中、朝を迎えた。

*建物・造作・設備・備品の損傷状況は

*職員の安否確認は

*職員の施設までの所要時間の確認は平素からとれているか

*入居者の家族安否状況連絡は

*備蓄品の確認

*階段の誘導方法

*脱館防止のための対応

*AED・発電機・吸引器の使用法確認は

*地域高齢者が助けてくれと施設ドアを叩いている。受入可否はどうするか。